

夏のお楽しみ
「お祭り」で各地にぎわう

「平和の大切さ思い出して」 「平和の像」に千羽鶴をささげる



「平和の像」に千羽鶴をささげる中学生

JR八日市場駅前に建つ「平和の像」に、市民から寄せられた9万7,000羽の千羽鶴をささげるセレモニーが8月1日、開催されました。

セレモニーには、シニアクラブやボーイ、ガールスカウトのメンバーら約50人が参列。「猷鶴」に先立ち、八日市場第二中の山崎敦生さん、野栄中の鶴ノ澤里彩さん、八日市場第一中の秋葉智哉さん（いずれも3年）により平和都市宣言が朗読され、続いて同第二中の萩野みのりさん（3年）が作文を発表し「この鶴により、一人でも多くの方が平和の大切さを思い出してくれることを願います」と訴えました。

千羽鶴は、今年は市内の小中学校や福祉施設などの43団体と26人から寄贈され、8月15日まで同所にささげられた後、広島平和文化センターと長崎原爆資料館へ献納されました。

7月中旬から後半にかけて、市内各地で夏のイベントが開かれ、にぎわいを見せました。

ふれあいパーク夏祭り



会場を盛り上げた野手囃子連・九十九会の演奏

ふれあいパーク八日市場で7月16日、「夏だ！祭りだ！パークでわっしょい!!」が開かれました。同施設の夏の恒例行事で、雅楽の演奏や囃子の披露などが行われ、家族連れなど大勢の人が訪れました。



華やかなピアダンスショー

のさかふれあい祭り

のさかアリーナ周辺を会場に7月22日、のさかふれあい祭りが開かれました。「子どもみこし」の渡御で始まった祭りは、やぐらが組まれた広場でピアダンスショーやのさか太鼓の演奏などを実施。フィナーレには約300発の花火が打ち上げられ、多くの来場者を魅了しました。

市場まつり

八日市場の地名の由来である“市”を夏の夜に再現する市場まつりが、7月25日に開催されました。会場となった本町通り商店街には出店が並び、多くの人でにぎわいました。ダンスやショーなどが行われた特設ステージ周辺は、特に盛り上がりを見せました。



共通商品券が当たる「じゃんけん大会」は大盛り上がり



匝りの里に到着し紙吹雪で出迎えられるサイクリスト

いっぱい紙吹雪で出迎え

1000kmリレーが市内通過

東日本大震災の被災地を通り、青森県から東京都までをたすきでつなぐ「未来への道1000km縦断リレー2017」が8月6日、匝瑳市内を通過しました。

リレーは7月24日に青森市をスタート。ランニングと自転車をつなぎ、14日目のこの日、サイクリストがそうさ観光物産センター匝りの里に立ち寄り、市民や後続のランナーから大量の紙吹雪で出迎えられました。

また、匝りの里では同日、本市のご当地キャラクターが集合する「匝瑳市夏のキャラ祭り」が開かれ、ソーサマンやあっぴいちゃんなどが会場をにぎわせました。

〈訂正とお詫び〉

8月号9ページ「中央4部、ポンプ車3連覇」の記事中、県大会の出場部数に誤りがありました。次の通り訂正してお詫びいたします。

【誤】全10か部中 【正】全12か部中

9月1日は
防災の日

災害への備えは万全に

9月1日は「防災の日」です。
突然やってくる災害への備えには、日ごろから家庭で話し合い、防災対策に取り組むことが大切です。
次の1〜5のポイントを参考に、もしもの時のため普段できることを実践してみましょう。



昨年度の市総合防災訓練で避難所運営の図上訓練に取り組む参加者(共興小)

ポイント1 普段からの心掛け

連絡方法など相談災害時の連絡方法や集合場所、避難場所などを家族と決めていきますか。日中に災害が起きた場合、自分も含めて家族が自宅にいるとは限りません。非常時の連絡方法などをあらかじめ相談しておくことが大切です。

ポイント3 「非常時持ち出し品」の確認

「必要なもの」を厳選非常時の持ち出し品は普段から用意し確認をしていますか。「必要なもの」を家庭で話し合い、持ち出しやすい場所を用意しておきましょう。下記のチェックリストを参考に、必要なものを確認しましょう。

非常時持ち出し品 チェックリスト

- 貴重品
 - 現金 通帳、印鑑 身分証明書
- 非常食品など
 - 飲料水、簡易食料(最低3日分以上)
 - 離乳食、粉ミルクなど
- 医薬品
 - 救急セット 常備薬 体温計
 - 毛抜き、爪切り、綿棒など
- 衣類
 - 下着、上着 レインコート
 - 軍手、手袋、靴下など タオル
- 生活用品
 - ティッシュ ウエットティッシュ
 - ビニール袋 生理用品 など
- その他
 - 懐中電灯、乾電池 携帯ラジオ
 - 携帯電話 筆記用具 など



※匝瑳市防災マップから抜粋

★準備のポイント“期限切れに注意”★
消費期限・使用期限を確認し、古いものから順に使っていくなど入れ替えをしましょう。

ポイント2 「日常備蓄」のススメ

目安は最低3日分災害時に支援物資がすぐに手に入るとは限りません。日ごろから水や食料品などを少し多めに備蓄しておきましょう。備蓄は最低でも3日分(できれば1週間分)が目安です。

【1人当たり3日分の水、食料品の例】

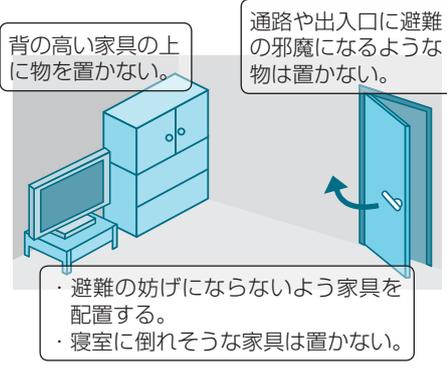
- 水 9ℓ(1日・3ℓ×3日) ごはん(アルファ米) 4~5食分
 - ビスケット 1~2箱 板チョコ 2~3枚
 - 乾パン 1~2缶 缶詰 2~3缶
- × 家族の人数分



※消防庁発行『わたしの防災サバイバル手帳』参照

ポイント4 自宅の安全確認

家具の置き方を工夫して地震対策大きな地震が発生したとき、家具の転倒などは大げがの原因となり、避難の妨げにもなります。日ごろから自宅での安全対策に心掛けましょう。



ポイント5 自主防災活動への参加

自分たちの地域は自分たちで「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを目的に、全30の自主防災組織が市内各地区に設置されています。地元での防災訓練など、自主防災組織が行う活動へ積極的に参加しましょう。

※このページに関する問い合わせは総務課消防防災班 ☎73-0084へ